

「弟子の条件」

2023年09月01日

大勢の群衆が付いて来たので、イエスは振り向いて言われた。「誰でも、私のもとに来ていながら、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命さえも憎まない者があれば、その人は私の弟子ではありえない。自分の十字架を負って、私に付いて来る者でなければ、私の弟子ではありえない。」（ルカ14：25～27）

主イエスの言葉に慰められ、励まされ、病を癒やされ、悪霊から解放された人々が、主イエスの周りを取り囲んでいた。大勢の群衆が従っていたのである。主イエスは振り向いて、その人々に言われた。「誰でも、私のもとに来ていながら、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命さえも憎まない者があれば、その人は私の弟子ではありえない。自分の十字架を負って、私に付いて来る者でなければ、私の弟子ではありえない。」マタイ福音書10章37節～38節の並行記事には「私よりも父や母を愛する者は、私にふさわしくない。私よりも息子や娘を愛する者も、私にふさわしくない。また、自分の十字架を取って私に従わない者は、私にふさわしくない」と書いている。ルカ福音書は、両親、妻、子、兄弟、姉妹、そして、自分の命までも憎めと書いている。家族は生きる支えであり、命は何より愛おしいものである。それらを憎まなければ、主イエスの弟子ではないと言われる。主イエスが枕するところがないほどに多忙であり、権威ある宗教家たちから命を狙われていることを知った母マリアと兄弟たちは、故郷ナザレに連れ戻そうと訪ねて来た。群衆に遮られ、近寄れないので、人を介して訪問を告げた。すると、主イエスは「私の母、私のきょうだいとは誰か」と答え、「見なさい。ここに私の母、私のきょうだいがいる。神の御心を行う人は誰でも、私の兄弟、姉妹、また母なのだ。（マルコ3：33～34）」と言われた。神の国の宣教使命に立って、家族との絆を切っている。しかし、ヨハネ福音書には、主イエスは十字架の上から、十字架の下で悲しむ母マリアに対し「女よ、見なさい。あなたの子です」と言い、愛弟子ヨハネに対し「見なさい。あなたの母です」と、ヨハネに母マリアを託している。主イエスと母マリアは切れていなかったと告げている。また、命に関しては、マルコ福音書8章35節～37節に「自分の命を救おうと思う者は、それを失うが、私のため、また福音のために自分の命を失う者は、それを救うのである。人が全世界を手に入れても、自分の命を損なうなら、何の得があろうか。人はどんな代価を払って、その命を買い戻すことができようか」と書いている。主イエスの弟子になるためには、自分に負わされた十字架、そして、他者の苦しみを担う十字架を負う者であれと明言される。

主イエスは、群衆に、弟子になるために、厳しい条件を突き付けられた。続いて、二つの譬えを語っておられる。塔を建てる時、腰を据えて、費用の計算をしてないと、土台を据えただけで完成できず、人々からの笑い者になってしまう。また、他の王と戦う時、自分の兵と敵の兵の数を比べ、迎え撃つことができないと分かれば、使節を送って和を求めるだろう。この二つの譬えが、主イエスの弟子になるための条件とどのような関係にあるのか。何かを決断して行動を起こす時には、正確に採算を判断してから行動に移す。中途半端な決意は挫折を招くという警告のようだが、主イエスへの信従も確かな決意を促しているのであろうか。「だから、同じように、自分の財産をことごとく捨て去る者でなければ、あなたがたのうち誰一人として私の弟子ではありえない」と結んでいる。12弟子たちは、この勧めを受け止め、全てを捨てて従ったのである。